



美容室「afloat-f」

美容室「afloat-f」の空間は、光や、物理的な重力など、プリミティブな要素から発想するようにすれば、消費されないデザイン、普遍的なものにつながるのではないかと考えています。

商業建築は時代のトレンドに流されたデザインにならないように、考える時には、光や、物理的な重力など、プリミティブな要素から発想するようにすれば、消費されないデザイン、普遍的なものにつながるのではないかと考えています。

父が生物物理の研究者で、なんとなく、そちらの世界が身近だったのだから、バイオテクノロジーの分野に進みたいと思っていました。ところが、高校三年の時、友達と進路を語り合った時、建築に行きたいという友人がいまして、その時、瞬間的に私も建築をやってみたくて、私は直接会ったことがないのですが、祖父が建築を志していた関係で家に建築の本がいっぱいあったり、

小さい頃、家の建て替えの時、モデルハウスをたくさん回った思い出も浮かんできて、急に方向転換したわけです。そして、高校三年の途中から志望変えて、可能性のある学校を探して、昭和女子大の家政系の住居関係の学科で建築を勉強することになりました。卒業後は青木淳建築計画事務所に入社したのですが、青木さんという方が、所員の新しい感覚を取り入れながら仕

バイオテクノロジー志望から 建築へ志望変更した高校時代

次々と新しいアプローチで

注目を集めた商業施設設計

事を進めていくというやり方で、なかなか面白いことを提案しないと前に進みません。毎日、案を考えて模型を作つて、これではつまらないと言われ却下。最初のプロジェクトでは、家にも帰らず一晩がかりで案を作るのを一カ月ぐら

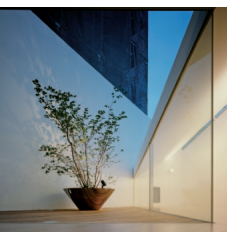
い続け、やっと「面白い」と言われた思い出もあります。そこに、青木さんが新しいアイデアを加えてブラッシュアップしていくのですが、そういうふうに建築を解釈していくんだと、私にとつてはすごく勉強となった日々でした。

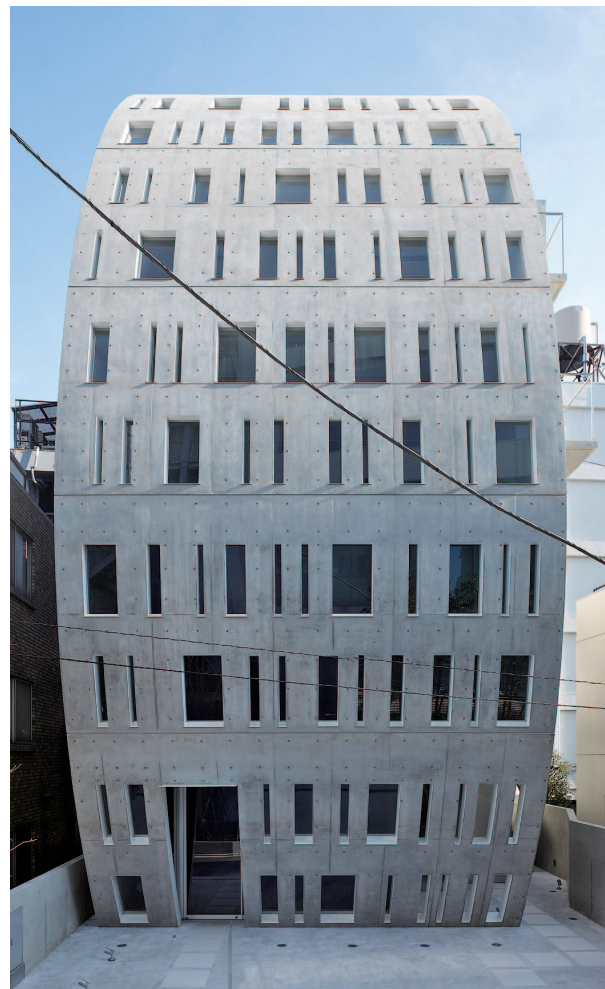
時代を経て積み重なった、心地よい複雑さを生かしながら、都市の風景を再構築する



永山 祐子 *Yuko NAGAYAMA*

独創的な発想から
作品を次々と作り続ける注目の女性建築家・永山祐子氏に聞いた
新たな建築へのアプローチと都市の蘇生





URBANPREM 南青山 ビル外観

南青山のビルの写真を見ると、皆さん一瞬、魚眼レンズで撮ったのかと驚きます。一瞬で把握しきれないことに對して興味を持ったところから始めました。この場所は、広い青山通りから

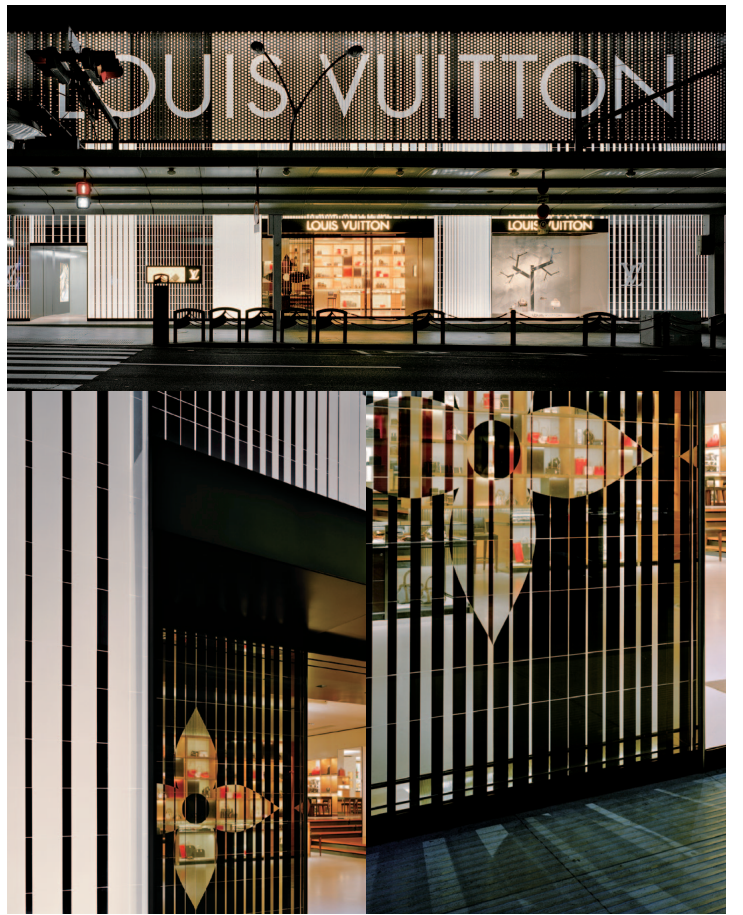
一本入った小さな通りなのですが、大通り沿いには高層のオフィスビルが立ち並んでいる。ところが一本、道を入ると急に住宅街で、低層の住宅地が広がり、スケールのギャップのある敷地

街のスケールギャップを解消

どこまでも「曖昧」なビル

部屋から見える一番大きな面は、この屋根の上です。どの部屋より大きな白い面で、そこが誰のものでもなく、誰も入れない場所ですが、逆にそういう場所を目の前になると、そこに行ってみたい、登ってみたいと思います。

その「想いを馳せる」ことが重要なのではと思います。人が占領できない場所を残しておくことは、物理的には、そこに行けないという制約がありますが、逆に精神的には自由さを得られるのではないかと思っています。



LOUIS VUITTON 京都大丸店

ルイヴィトンのファサードデザインに使ったのは、液晶パネルや、カメラマンが反射光を切る時に使ったりする偏光板ですが、一方だけの光を通す特性を持っています。二枚の偏光板を重ねるときにその光を通す向きを平行に重ねると光を通すので透明になり、光を通す向きが直行するように重ねると光を通さないで黒い影となります。この原理を使ってファサードの縦格子を作りました。実は中には何も入ってませんし、薄い縦格子が6mも立っているわけでもありません。光の現象を使ってファサードの縦格子を作ってい

ます。でも人は、これを有ると感じていました。私が外に立っていると、隣で、これなんで出来てるのだろうとか、アクリル？、ミラー？とか、それぞれ違った捉え方で実態の無いモノを有ると感じています。つまり、人にとつてのリアリティとは、物理的な有る無しではなく、その人がどう捉えるかに拠っているのだと。その時から、モノに縛られない現象的なことで何かできないかと考えています。また、偏光板を建築ファサードで使用したのは世界初で、構成自体も世界初だったので、特許を取りました。

物理的に入れない領域が

逆に、精神的な自由を与える

「丘のある家」という住宅は、周りが高い建物に囲まれており、外から見えないように閉じると同時に、光を得る為に空に向けて開いたすり鉢状の構造としました。光の条件としては北向きなのですが、大屋根を南側の太陽の方に向け、反射で光を部屋に取り込む方法で、北向きとは思えないほど中は明るく、ふんわりと光が回っています。屋根の下は天井高さが6mのリビングになっていきます。個室は全て屋根に面しており、明かるさを感じられます。光は、光源を見ても眩しいとは思わない。

光のあたったものを見て明るい、美しいと感じます。反射光を扱う事が光を考える上でとても重要だと思っています。



丘のある家



URBANPREM 南青山の湾曲したファサード

です。これも東京らしいシーンの一つだと思のですが、どちらのスケールにも属さないもの、建ち方として、曖昧なビルというのを考えたのです。そこで、下から見上げたときに何階建ての建物なのか分からないように、全面

けて、窓によってスケールが把握できないようにしました。実際に、一層に上下二段に窓が開いている為、五階建てのビルが十階建てにみえます。そんな一瞬ではスケールが把握できない建ち方がテーマになっています。

街がもつ固有の魅力を生かし

新しい視点で再構築してゆく

谷中の喫茶店、カヤバ珈琲は、大正時代の木造の古い二階建てで、地元の常連さんに愛される場所でした。この空間の、何がそういう魅力を生んでいたのか観察したときに、私を感じたのが明暗のコントラストでした。古い喫茶店は、内装は暗めで窓の外は明るく、常連さんは一人で来ているおじいさん。コーヒーを眺めながら、突然、道を観

察したりと。その、街の傍観者としては、中が暗く外が明るいのがいいわけです。そして、この光のコントラストがこの場所の質を生んでいて歴史を生んでいるのだと。そこでそのコントラストを新しく表現したいと考え、天井を黒いガラスとしました。光を反射させることで、もともとあるコントラストのある風景が縦に増幅するわけです。

車の電動化に対応するEV充電システムの導入スタート!



*現在の対応機種:フレキシブルパーク *詳しくは営業担当までお問合わせ下さい。

●EV対応の最新情報●

近年進みつつある電気自動車の普及に備えて、日精では車の電動化に対応する機械式駐車設備の導入を開始しました。使い方は至ってシンプル。パーキング利用者は操作盤より充電専用トレーを呼び出し、充電ケーブルをトレー上のスタンド式コンセントに接続するだけ。車は給電装置が装備された収容スペースに格納され、すぐに充電が開始されます。機能面では単層200Vによる充電が可能。又、操作盤のタッチパネルで充電利用者の電力使用量を確認できる機能も付加しました。

日精が推進する先端のエコパーキングは、これからの環境社会の都市インフラとして重要な役割を担っていきます。

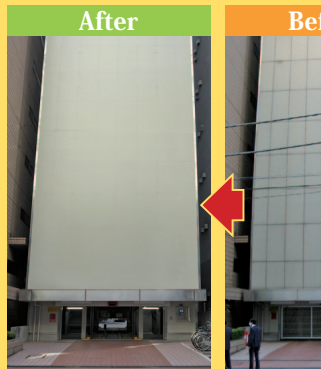
リニューアル事例

Renewal

【建築・駐車設備概要】
■建築主/明産株式会社
■機種/ニッセイELパーキング
■型式/ELULSMRT-26 ■収容台数/26台



使用するスペースはそのままに、入庫口を広くすることで、需要が高まりつつあるミドルルーフ車の収納が可能となりました。



早急なリニューアルが求められたため、外装は洗浄と再塗装で対応し、そのままの状態で活用しました。

明産新川シティビル/ELパーキング 仕様比較表				
収容車寸法	全長	全幅	全高	全重量
改修前	5,300mm	1,900mm	1,550mm	1,500kg
改修後	5,300mm	2,050mm	1,800mm	2,100kg/2,300kg

リニューアル事例 ● CASE・2

証券会社が数多く立ち並ぶことで知られる東京のビジネス街・茅場町。その中心地にあるオフィスビル、明産新川シティビルでは昨年、機械の老朽化を改善するとともに、入庫時間のさらなる短縮を図るため、タワー型駐車設備の

リニューアルが実施されました。これまでと同じエレベータ方式(フオーク式)ELパーキングを先端のシステムに刷新。また、近年の車事情に合わせて、以前は対応していなかったミドルルーフ車も収容できるようになりました。



リニューアル事例 ● CASE・1



【建築・駐車設備概要】
■建築主/株式会社ラッキー ■機種/ニッセイLEVEL/パーク
■型式/NLPSGR3A-16FD ■収容台数/48台



今回のリニューアルでは出入庫口の仕様も刷新。高さだけでなく車幅も広くなったため、より円滑に車の出し入れができるようになりました。

千葉センタースクエアビル/LEVEL/パーク 仕様比較表				
収容車寸法	全長	全幅	全高	全重量
改修前	4,700mm	1,700mm	1,550mm	1,500kg
改修後	5,050mm	1,900mm	上段:2,000mm 中段:1,800mm 下段:1,550mm	上段:2,300kg 中段:2,300kg 下段:1,900kg



カヤバ珈琲

この喫茶店のリノベーションのプロジェクトを通して、何か新しく一から作るのではなく、既にそこにあるものを、新しい切り口でどう見せたいのかを考える事が面白いと思えました。結果、昔の常連さんたちも、完成すると、ああ、そんなに変わってないし、安心して来てくれたようです。逆に、新しいと感じる若い世代の人もいて、来店する年齢層も幅広くまりました。

やはり、街を全部一度に新しくしてしまうのは不自然だと思います。私は心地よい複雑さと言っているのですけれど、都市の中に出来上がった、いろんな年代のモノが積み重なった、情景というのは一瞬では作れないもの。



なにか、そういうものを生かしているのが重要なかなと思っています。リノベーションに可能性を感じています。いま、宇和島の『木屋旅館』という老舗旅館のリノベーションを手がけています。その場所を読み、さらに新しい視点をつくり、新しく再生できないかと、いろいろ試みているところです。

単に機能的なものと考えず意匠的に変化可能なシステムに

立体駐車場に関しては、クルマのための空間ですから、窓もなく、そつげなくても良いとなるのでしょうか、外側はクルマのためではなく、街のためのものです。あれだけ大きな塔状のものを建てるのなら、都市に対しての振る舞い方を考えないと、ただの大きな箱になってしまいます。単に機能的なものとして考えるより、外側に何かできる構造を持つとか。意匠的に変化させることができるシステムがあれば、違ったデザインにできるかと思えますし、街の風景になっていくと思います。

地下駐車場は非常に良いと思います。郊外の国道沿いなどを見ると、駐車場が続いている風景があり、クルマを降りても駐車場に囲まれている印象です。コストの問題もあるかとは思いますが、それらを地下に入れてしまつて、道路のすぐ脇に建物を建てる事ができたり、道路脇を駐車場ではなく、公園のようにできたら国道沿いの風景も変わると思えます。



P R O F I L E

永山 祐子 Yuko NAGAYAMA

1975年東京生まれ。1998年、昭和女子大学生活科学部生活環境学科卒業。1998年、青木淳建築計画事務所勤務。2002年、永山祐子建築設計を設立。

主な作品
「afloat-f」2002年、「CAST」2003年、「LOUIS VUITTON 京都大丸店」2004年、「丘のある家」2006年、「URBANPREM 南青山」2008年、「カヤバ珈琲」2009年など。